

令和2年度 スポーツトレーニング教育研究センター事業報告書

スポーツトレーニング教育研究センター長 山本 正嘉

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. アスリートドックプロジェクト

本学の様々なスポーツ種目、および子供からシニアまでの幅広い年代の多様な競技種目のアスリートを対象として体力や技術の測定・評価を行い、それをフィードバックすることで競技力向上の支援を行う「アスリートドックプロジェクト」を実施した。また、それらの成果を学術論文として公表した。

2. 子供の体力向上プロジェクト（Exseed（子供貯筋）プロジェクト）

本センターの研究協力校と連携し、学校教育の中で実施可能な、児童生徒の体力を増進するための運動プログラム「Exseed（子供貯筋）プログラム」を開発した。また、それらの成果を学術論文として公表した。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

該当なし。

2. 研究プロジェクト

① アスリートドックプロジェクト

本学の競技選手（サッカー、ボート、競泳、柔道、自転車など）を対象とした研究
(主担当：山本・藤田・高井)

国体選手（スピードスケート）を対象とした研究（主担当：山本）

高校生の競技選手（柔道と自転車競技）を対象とした研究（主担当：藤田・山本）

小・中学生の柔道選手を対象とした研究はコロナ禍のため実施できなかった

(主担当：藤田)

スポーツ選手・登山者のための低酸素トレーニングプログラムの開発（主担当：山本）

② 学校現場で活用できる体力向上を促す運動プログラムの開発

小学生および中学生を対象とした研究（主担当：高井）

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト

① 鹿児島県教育委員会と連携して、スポーツ指導者の再研修のための「スポーツリフレッシュセミナー」を、オンラインにより2日間にわたり開催した（主担当：藤田）

② 全日本学生柔道連盟・九州学生柔道連盟の協力を得て、全国体育系学生柔道体重別選手権大会出場選手の身体組成測定を実施した（主担当：藤田）

4. その他

① スポーツカウンセリング室を運営した（主担当：山本）

*上記事業に関する報告の詳細は『スポーツトレーニング科学』22巻（1-71頁）として刊行

Ⅲ. 決算報告

1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	287 千円	カウンセリング室運営費（学生アルバイト）
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	287 千円	

2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	3,284 千円	消耗品、保守点検費等
その他	219 千円	図書購入費等
計	3,503 千円	

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	902 千円	ニューズレター、スポーツトレーニング科学印刷費等
その他	189 千円	研究協力校担当教員旅費等
計	1,091 千円	

4. その他

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	20 千円	消耗品等
その他	16 千円	小荷物運送費等
計	36 千円	

Ⅳ. その他

1. 発刊物

『スポーツトレーニング科学』第22巻の刊行（主担当：山本、令和3年3月）

『トレセンニューズレター』第24号の発行（主担当：藤田、令和2年10月）

2. 開催会議状況

本センターの協力校等連絡会議の開催（主担当：山本、令和2年10月）

3. 広報活動

学内共同利用施設であるため、学外への広報活動は行っていない。

4. センター利用促進策の成果

特記事項なし。

5. その他

特記事項なし。